

**武生商工会議所**  
管内事業所景気動向調査 平成29年4-6月期

調査期間 平成29年6月30日～7月10日

調査票配布数 500 件

調査回答件数 87 件

回収率 17.4%

今期：平成29年4-6月期 前期：平成28年12-平成29年2月期 来期：平成29年7-9月期

(1) 業種・従業員規模

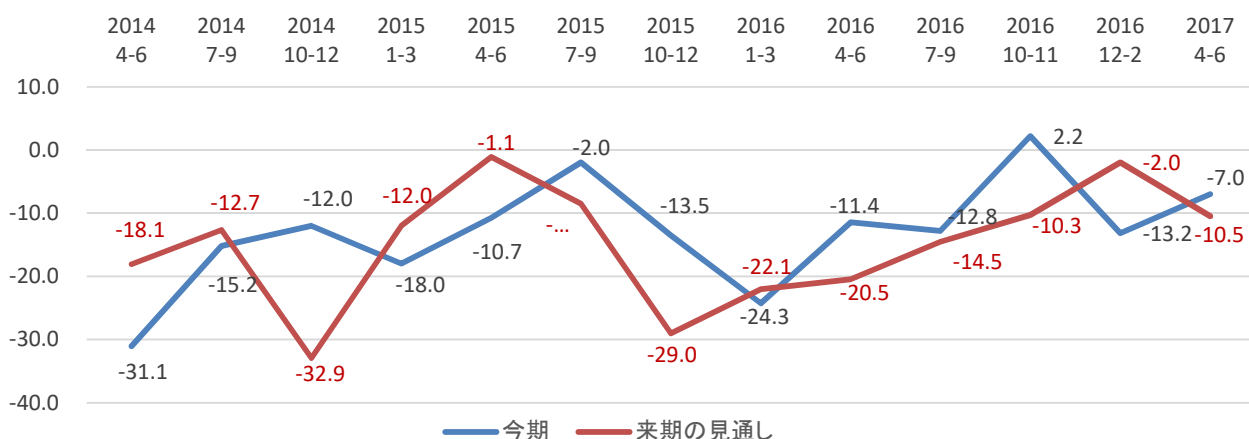
	①	②	③	④	⑤	無回答	合計	割合
	5人以下	20人以下	50人以下	100人未満	100人以上			
①製造業	12	3	0	0	0	0	15	17.2%
②卸売業	15	0	0	0	0	0	15	17.2%
③小売業	15	1	0	0	0	1	17	19.5%
④飲食・サービス業	23	1	0	0	0	0	24	27.6%
⑤建設業	11	1	2	0	0	0	14	16.1%
⑥その他	1	0	0	0	0	0	1	1.1%
無回答	0	0	1	0	0	0	1	1.1%
合計	77	6	3	0	0	1	87	100.0%
割合	88.5%	6.9%	3.4%	0.0%	0.0%	1.1%	100.0%	

## 【問1 今期の景況状況について】

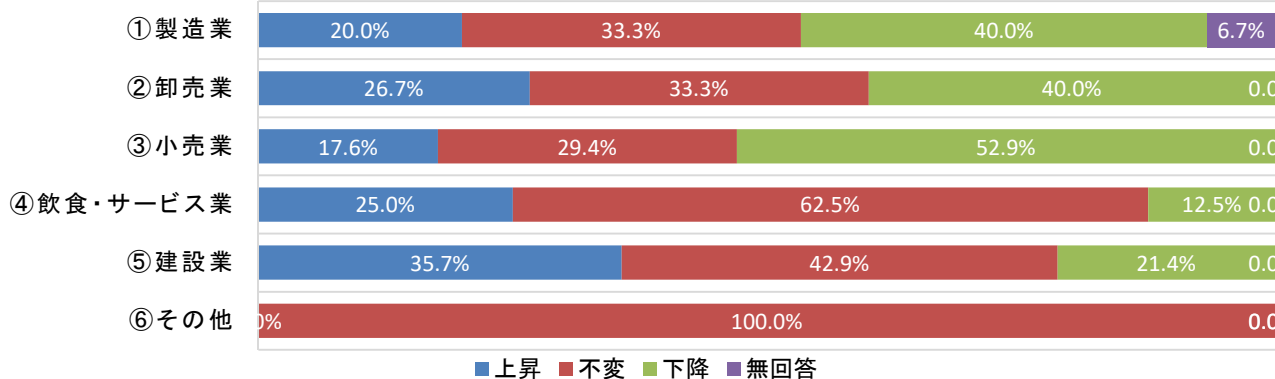
今期の景況状況について、D I 値（上昇から下降を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が前回調査時（2016年12-2017年2月期）と比べ6.2ポイント増加した▲7.0と、好転傾向に転じている。来期の見通しD I 値については、前期と比較して8.5ポイント減少した▲10.5となっており、若干の悪化傾向に転じることが予想される。前期の一過性の悪化傾向に対する影響により、今期は好転傾向に転じた。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値は、卸売業、建設業において特に好転傾向にあり、小売業における悪化傾向が大きい。来期の見通しD I 値については、飲食・サービス業、建設業にて好転傾向にあり、卸売業、小売業における悪化傾向が大きい。以上のことより、今期以降「北陸新幹線工事に関連した需要増（TEIKOKU NEWS 北陸版より）」もあり、建設業は引き続き好転傾向が続くと予想される。

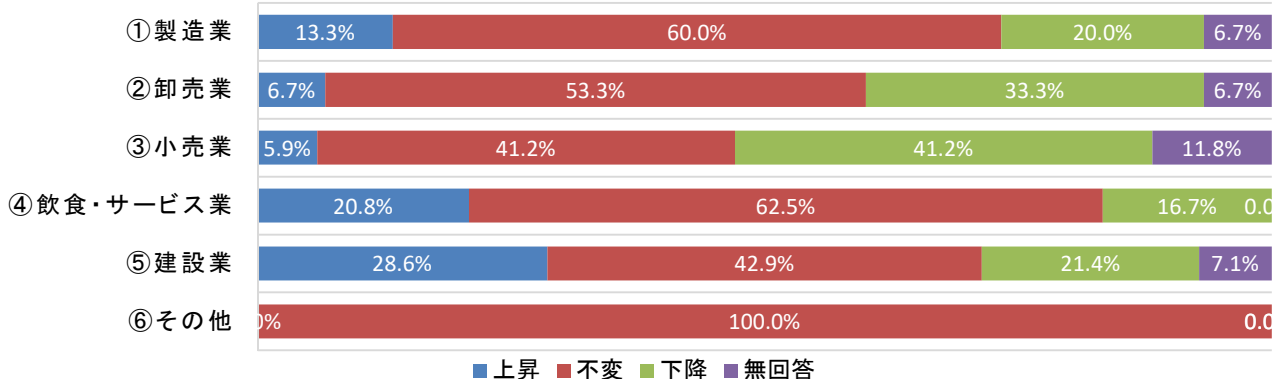
### 景況D I 値（上昇から下降を引いた値）の推移 全体



### Q1 業種別 今期の景況状況 前期と比較



### Q1 業種別 今期の景況状況 来期の見通し

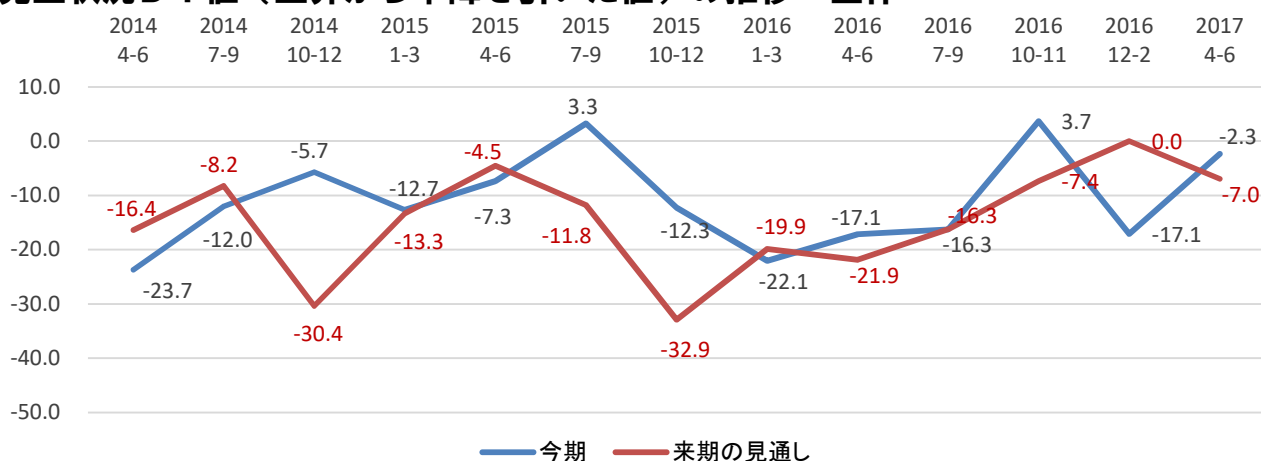


## 【問2 今期の売上高（受注高・出荷額等）について】

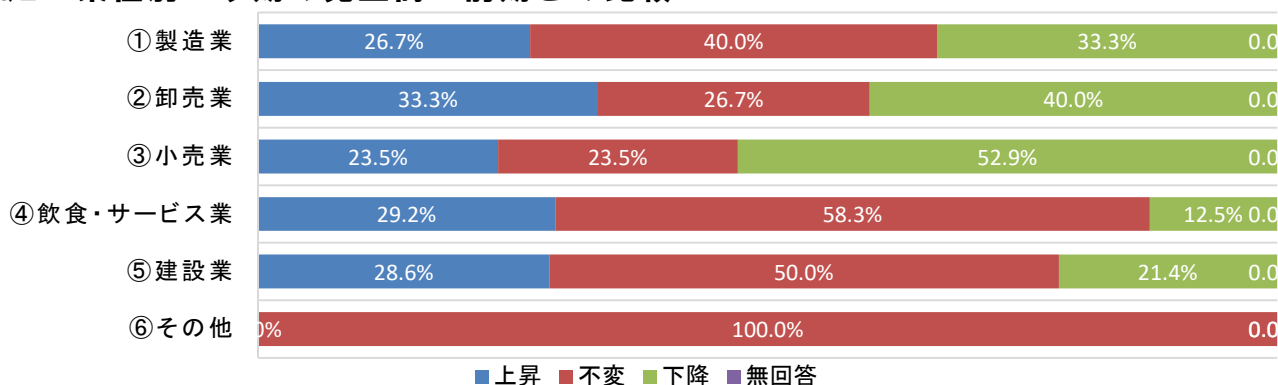
今期の売上高について、D I 値（上昇から下降を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が前回調査時と比べ14.8ポイント増加した▲2.3となり、景気状況と同じく好転傾向に転じている。来期の見通しD I 値については、7.0ポイント減少した▲7.0となっており、今期の売上状況と比べると悪化傾向に転じることが予想される。景気状況と同じく、前期の一過性の悪化傾向に対する影響により、今期は好転傾向に転じた。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値は、小売業以外で好転傾向にあり、特に卸売業、建設業における好転傾向が大きい。来期の見通しD I 値については、製造業、卸売業、小売業にて悪化傾向にあり、特に製造業、卸売業における悪化傾向が大きい。今期の大幅な好転傾向により、来期は各業種にて売上高の落ち込みが見られると思われる。

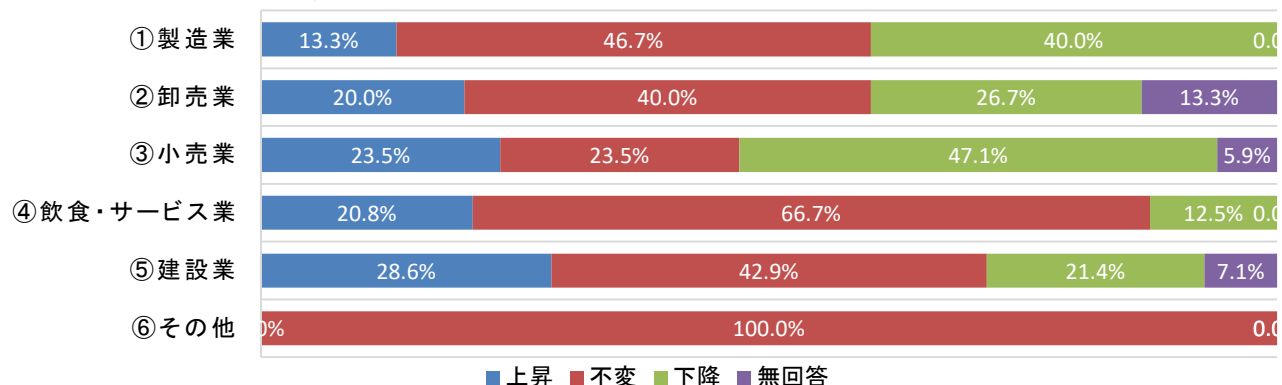
### 売上状況D I 値（上昇から下降を引いた値）の推移 全体



### Q2 業種別 今期の売上高 前期との比較



### Q2 業種別 今期の売上高 来期の見通し

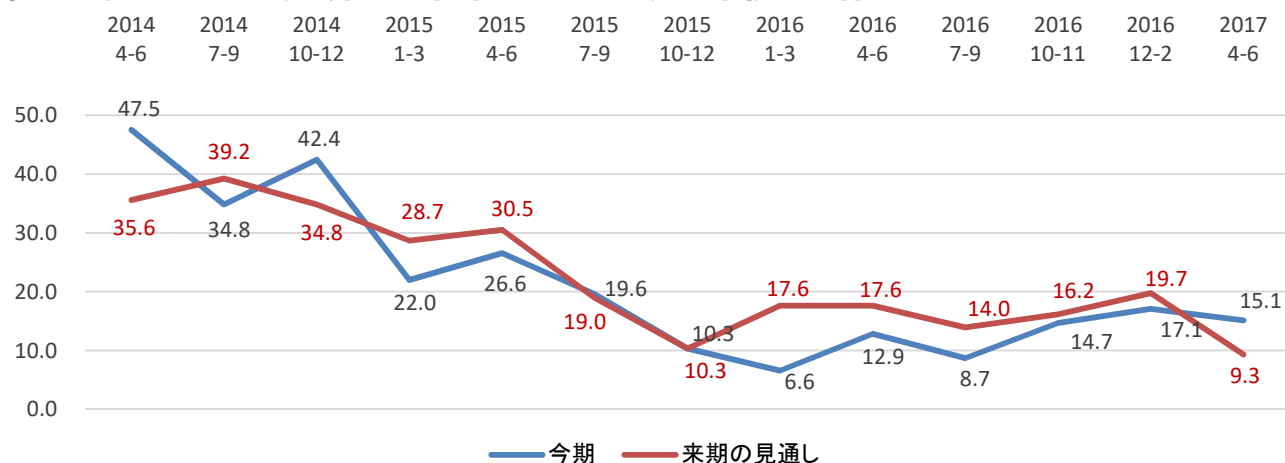


### 【問3 今期の仕入単価（商品・原材料等）について】

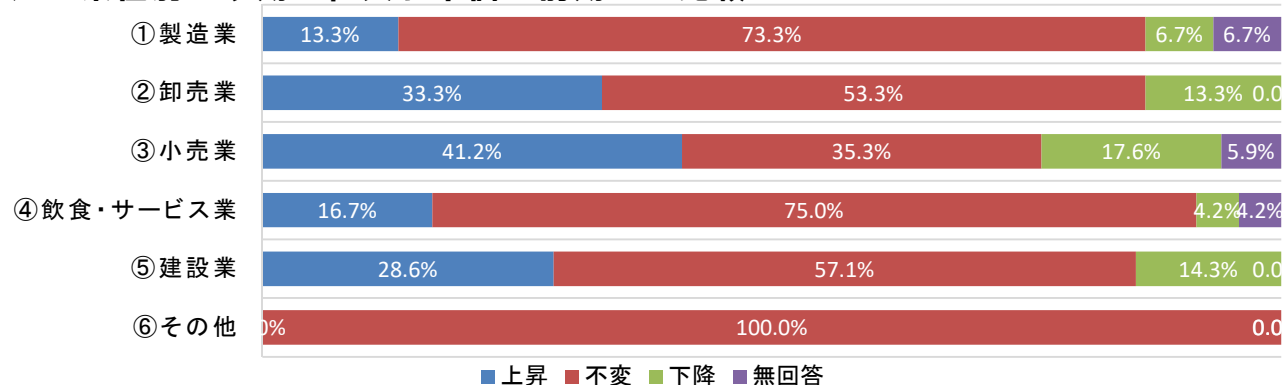
今期の仕入単価について、D I 値（上昇から下降を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が2.0ポイント減少した15.1となり、前回から若干の減少傾向となった。来期の見通しD I 値については、10.4ポイント減少した9.3となり、来期以降は減少傾向に転じると予想される。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値については、卸売業、小売業の増加傾向が顕著に見られる。また来期の見通しD I 値についても、卸売業、小売業においてD I 値が高く、全体の減少傾向とは逆行する形で、今期以降、卸売業、小売業の仕入単価の高騰が予想される。

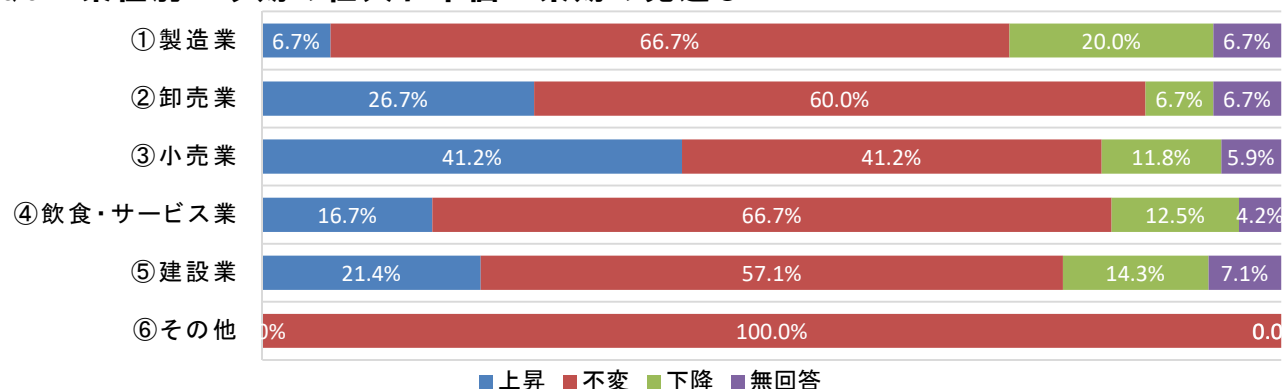
#### 仕入れ価格D I 値（上昇から下降を引いた値）の推移 全体



#### Q3 業種別 今期の仕入れ単価 前期との比較



#### Q3 業種別 今期の仕入れ単価 来期の見通し

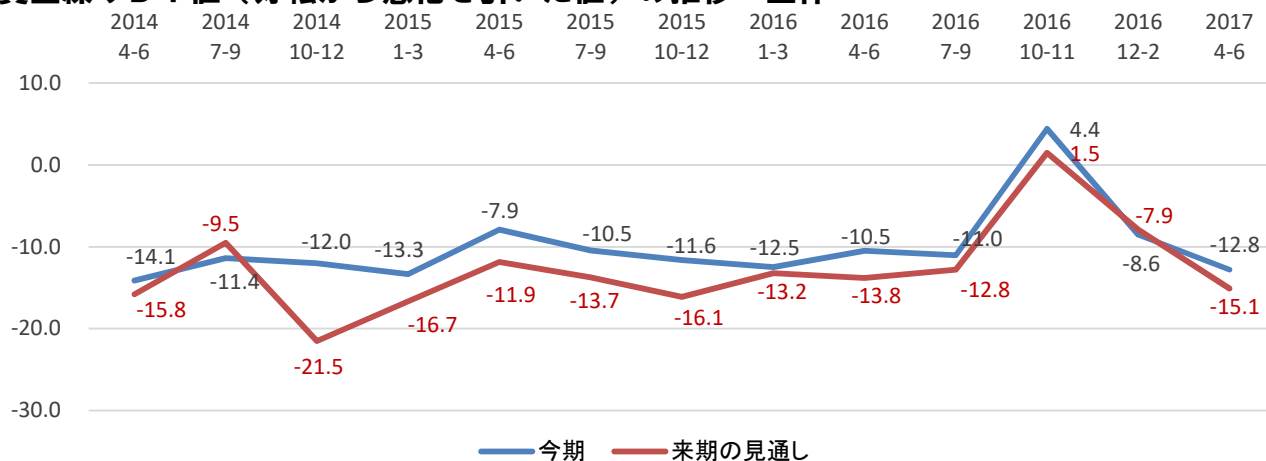


## 【問4 今期の資金繰りについて】

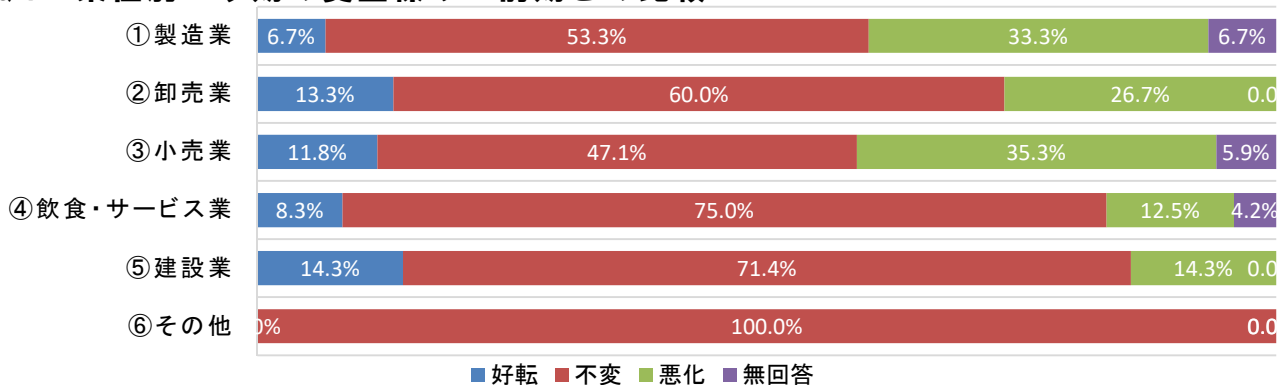
今期の資金繰りについて、D I 値（好転から悪化を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が4.2ポイント減少した▲12.8となり、来期の見通しD I 値についても、前回調査時と比較して7.2ポイント減少した▲15.1となっており、前回の急激な悪化傾向から引き続き、悪化傾向が続いている。しかし前々回の急激な好転傾向が一時的な結果であったため、D I 値自体は前々期以前と同等で、平均的な値となっている。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値については、小売業、建設業以外で悪化傾向にあり、来期の見通しD I 値においても、小売業、建設業以外で悪化傾向となっており、全体での悪化傾向につながっている。その中でも建設業は大幅な好転傾向にある。

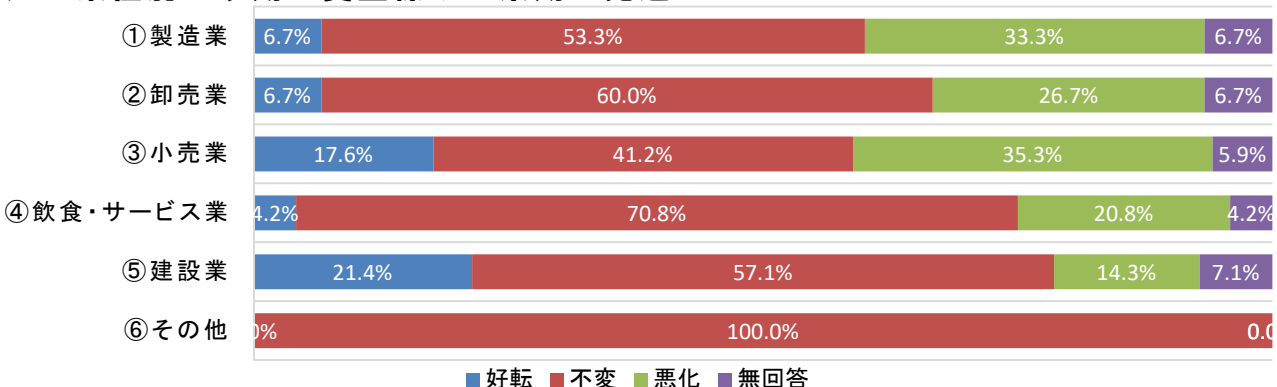
### 資金繰りD I 値（好転から悪化を引いた値）の推移 全体



### Q4 業種別 今期の資金繰り 前期との比較



### Q4 業種別 今期の資金繰り 来期の見通し

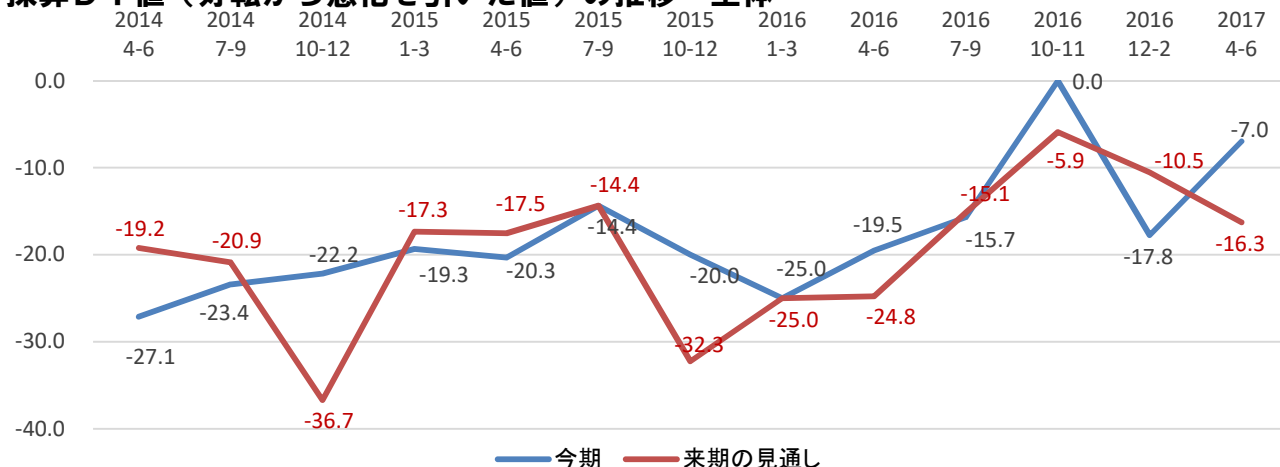


## 【問5 今期の採算について】

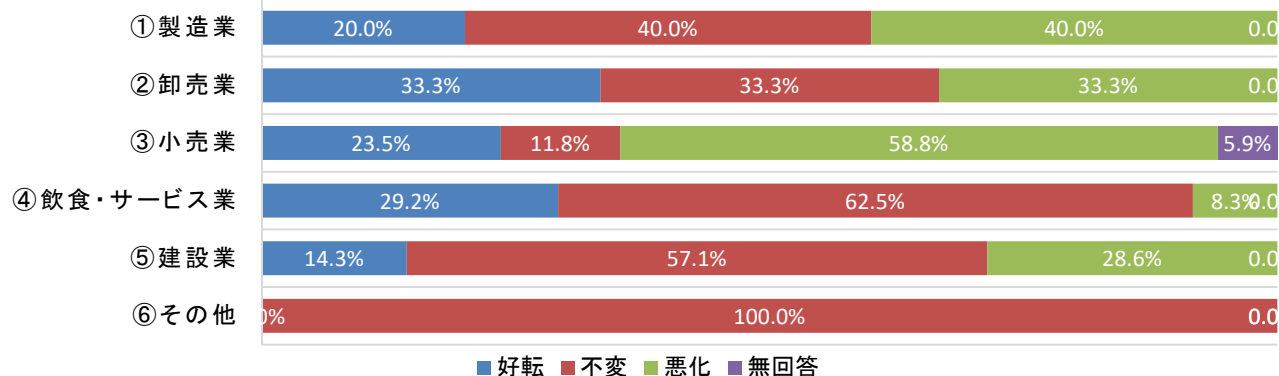
今期の採算について、D I 値（好転から悪化を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が前回調査時と比べ10.8ポイント増加した▲7.0となり、前回から大幅な好転傾向となっている。来期の見通しD I 値については、5.8ポイント減少した▲16.3となっており、今期と比べると大幅な悪化傾向に転じることが予想される。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値は、全業種において増加傾向にあり、特に飲食・サービス業の好転幅が大きい。来期の見通しD I 値についても、飲食・サービス業、建設業において好転傾向にあり、来期の悪化傾向予想に反し、更なる好転が期待できる。

### 採算D I 値（好転から悪化を引いた値）の推移 全体



### Q5 業種別 今期の採算 前期との比較



### Q5 業種別 今期の採算 来期の見通し

